

荒川水系(埼玉県域)大規模氾濫に関する減災対策協議会 入間川流域部会

第7回

- ・実施日：令和5年8月23日(水) 15:00~16:00
- ・場所：Web開催
- ・出席者：別紙のとおり

◆開催状況



(Web会議の様子)



(Web会議の様子)

◆協議会の内容

■入間川流域緊急治水対策プロジェクトの進捗状況について

- ・国の取組状況
- ・埼玉県の取組状況
- ・各自治体における流域治水の取組状況

■その他(令和5年6月2日台風2号に関する管内の対応について)

- ・令和5年6月2日台風2号について(熊谷地方気象台)
- ・荒川上流管内の出水対応について

■意見交換

- ・話題提供(入間川流域緊急治水対策プロジェクトの普及啓発について)

◆入間川流域緊急治水対策プロジェクトの進捗状況について

■国の取組状況(荒川上流河川事務所)

- ・令和元年東日本台風による浸水被害を踏まえ、入間川等支川では、河川整備計画の見直しを実施中。
- ・入間川流域緊急治水対策プロジェクトについて、入間川流域河川において河道掘削・樹木伐採、堤防整備、用地取得を実施中。
- ・越辺川及び都幾川の遊水地計画・検討の経緯については、現在内水対策を検討中であり、今後も適宜説明会を開催しつつ、工事着手に向けた検討を実施予定。

■埼玉県の取組状況(埼玉県県土整備部)

- ・都幾川については、令和元年東日本台風と同程度の洪水が発生しても堤防から越水しないこと

を目標としており、用地がまとまって確保できた区間において、堤防整備、河道掘削を実施している他、樋管の工事を実施中。

- ・葛川、飯盛川、九十九川については、排水機場や調節池の整備を行うこととしている。九十九川においては、調節池や排水機場の設計を進めるとともに、用地取得のための測量にも着手する。葛川、飯盛川については、九十九川と同様に、調節池や排水機場の設計を進めており、葛川では今後用地買収に着手していく。

■各自治体における流域治水の取組状況（川越市）

- ・昭和56年から平成12年にかけて、国庫補助金を一部活用し、市内の小中学校24校の校庭に雨水貯留・浸透施設の整備を実施。
- ・雨水貯留施設については、学校の校庭周囲に堤等を設ける地表面貯留施設と地下にコンクリート構造のピットを埋設する地下貯留施設があり、整備した17校で約31,000 m³の流出抑制効果があった。地表面貯留施設は比較的簡単に整備可能といったメリットがあるが、雨水が貯留されている間、学校の授業等で使用できないといった報告を受けている。
- ・雨水浸透施設については、整備した7校で約9,500 m³の流出抑制効果があった。雨水浸透施設では、校庭の水はけは向上するため、比較的すぐに校庭は使用可能となるが、整備費用は割高である。
- ・雨水貯留・浸透施設は、市と教育委員会で協定を締結し、「川越市流域貯留浸透施設管理マニュアル」に基づき、毎年1回梅雨時期前に点検、清掃を実施中。また、学校の教職員で維持管理を行っているが、マンパワー不足から適正な維持管理が困難となってきたため、専門業者による清掃作業が可能となる財源創設等をご検討頂きたいと考えている。

■各自治体における流域治水の取組状況（東松山市）

- ・東松山市で管理している雨水調整池は12か所あり、東松山駅の西口に位置する整備面積5,000 m²、貯留量1,450 m³の雨水調整池は、令和元年度から2か年で、事業費2億7,000万円で整備を実施。令和3年度以降は、上流側の雨水管整備と下流の準用河川の整備を並行して実施しており、令和7年度に供用開始予定。
- ・平成31年度に立地適正化計画を策定しており、浸水想定区域については、事前避難が可能であることや、浸水被害の防止軽減措置を図ることを前提に、居住誘導区域に含めることとした。一方、人的被害の可能性の高い土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域等は、居住誘導区域から除外することとした。また、今年度は防災指針を計画に追加予定。

■各自治体における流域治水の取組状況（坂戸市）

- ・荒川水系谷治川緊急浚渫推進事業として、坂戸市が管理する流路延長約1.7kmの準用河川谷治川の堆積土砂掘削を実施しており、令和4年度までに約2,300 m³の掘削を実施。なお、掘削した土砂については、国の築堤工事等に活用している。

■各自治体における流域治水の取組状況（川島町）

- ・川島町では、荒川が決壊した場合、町外への広域避難が原則であるが、逃げ遅れた方が一時的に避難するための施設として、面積27,600 m²、高さ8mの高台整備を実施予定。令和6年4月から工事を開始し、令和10年3月に完成予定。
 - ・町内の小中学生に対して、小学生は「自助」、中学生は「共助」をテーマに、ハザードマップの内容を理解した上で、いつどこに避難すれば良いかを考える趣旨の防災学習を実施。防災学習後のアンケート結果では、家族とともに振り返りを実施した生徒が8割以上確認でき、子育
-

て世代に対する一定の周知ができたと考えている。

◆その他(令和5年6月2日台風2号に関する管内の対応について)

■令和5年6月2日台風2号について(熊谷地方気象台)

- ・4月から7月の気象状況の概要については、4月は晴れの日が多く、5月から6月は周期的に変化し、7月は梅雨前線や湿った空気の影響により曇りや雨となった日が多かった。また、全体的に気温は高い傾向にあった。
- ・令和5年台風第2号と前線の影響により、埼玉県では6月1日から3日にかけて大雨となり、県内51市町を対象に大雨警報(浸水害・土砂災害)を発表しており、その内、さいたま市、川口市、朝霞市、志木市、和光市には土砂災害警戒情報を発表。また、人的被害は軽傷5人、家屋被害は越谷市、松伏町を中心に約3,400棟で浸水被害が発生。なお、これらの大雨に対して、気象台としては、事前に警報級の大雨となる可能性等について情報提供を実施。
- ・線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけについて、令和5年においては、8回中4回予測適中、12回中8回見逃しといった実績となった。また、線状降水帯は発生しなかったものの、呼びかけを実施した際には、実際に大雨となる可能性が高く、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要。

■荒川上流管内の出水対応について(荒川上流河川事務所)

- ・6月2日から3日にかけて、8班4支所の計32名の体制で対応し、小畔川の八幡橋水位観測所にて水防団待機水位を超過したため、水防団への待機指示を実施。
- ・綾瀬川の三郷排水機場で不具合が発生したため、本局指示に基づき、当事務所の排水ポンプ車を一台派遣し、排水作業を実施。

◆意見交換

■話題提供(荒川上流河川事務所)

- ・令和元年東日本台風による被害を風化させないこと、入間川流域緊急治水対策プロジェクトの取組を周知することを目的として、各種イベントにおいて、パネル展示等の普及啓発活動を実施。また、広報資料「かわらばん」による広報を実施中。

■熊谷地方気象台

- ・今年は関東大震災から100年であることを踏まえたイベントが開催されるかと思うが、例えば来年は令和元年東日本台風から5年といった区切りの年となるため、それらを踏まえたイベント等について、何か考えはあるか。

↳■荒川上流河川事務所

- ・令和6年度が令和元年東日本台風から5年という区切りということは承知している。何か地域住民に周知できるような場を設けた方がいいか等、開催について関係機関と相談していきたい。

↳■熊谷地方気象台

- ・他地域の気象台では、各地で発生した大きな自然災害の状況やその後の活動等について普及啓発を行うための防災の講演会やシンポジウムを開催しているところもある。
-

荒川水系(埼玉県)大規模氾濫に関する減災対策協議会
第7回 入間川流域部会 出席者名簿日時:令和5年8月23日(水)15:00~16:00
場所:Web開催

No	機関名	部署名	役職	氏名	備考
1	川越市	—	危機管理監	粟生田 晃一	代理
2	東松山市	—	市長	森田 光一	
3	坂戸市	総務部	部長	市原 真一	代理
4	川島町	—	町長	飯島 和夫	
5	埼玉県	危機管理防災部 災害対策課	副課長	佐保 貴之	代理
6	埼玉県	県土整備部 河川砂防課	参事(兼) 河川砂防課長	中須賀 淳	
7	気象庁 熊谷地方气象台	—	台長	蓼沼 信三	
8	国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所	—	事務所長	村田 啓之	